

評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果	課題
1	学習指導	・自ら学ぶ姿勢 ・授業改善 ・基礎学力の定着	3.16	教員それぞれが授業アンケート等を参考に授業改善に取り組んでいる。基礎学力向上への取り組みは授業だけでなく、基学や検定、外部模試(基礎力診断テスト)を計画的に実施することで、生徒が主体的に目標を持って学習するよう取り計らった。生徒が今後社会に出て困らないように基礎学力の定着に努めた。	学力の向上については各教科の取り組みについて更なる情報交換が必要がある。また、教科や学年単位だけではなく、学校全体での共通認識を高める必要がある。引き続き生徒が主体的に取り組む意識づけを支援し共有していくことが課題である。将来の進路だけでなく生き方についても考えさせ、知的好奇心を持たせるようにしていきたい。
		それぞれの授業において「言語活動」を意識し、対話的な学習活動に取り組んでいくことで生徒自らが主体的に学ぶ姿勢を育てていく。授業評価アンケートを実施して授業改善に生かす。 「基学」、基礎力診断テスト、各種検定の受検、読書週間など多様な取り組みにより、生徒が自ら基礎的な学力の伸長と教養の涵養（自分をカルチベイトすること）を意識するよう図る。	3.09		
2	生徒指導	・規範意識 ・人権教育 ・自他の尊重	3.19	基本的な生活習慣（けじめと規律のある態度）を身につけさせることを重点として、挨拶・頭髪・身だしなみ指導に力を入れ、概ねルールを守った学校生活が維持されている。また、交通安全指導として長野南防犯協会と南警察署の協力を得て、毎月1回篠ノ井駅前での自転車盗難防止啓発活動や交通ルールを守る運動にクラス単位で自主的に参加した。	スマホを使い始める1年生にネットトラブルが起りやすく、いじめに発展ケースが多いため、情報モラルと人権感覚を意識した早期指導の徹底を図りたい。更に、自転車事故報告は昨年比7件から5件に減少したが、例年1年生に事故が多いため、早期段階から自転車の乗り方に関する安全教育を行い、2、3年生も含めて交通安全教室の充実を図る。
		規範意識（ルールを守ろうとする気持ち）の向上を働きかける機会を定期的に設けるとともに、お互いを尊重する人権感覚を育てる教育活動を行う。 生徒が円滑な人間関係を築くことができる力を身につけるため、教員・生徒相互に挨拶や礼儀を重んじるとともに、連絡相談など日常的に細やかなコミュニケーションができるような雰囲気醸成していく。	3.09		
3	キャリア教育	・進路指導 ・自己指導能力の育成	3.28	カルチベイト・ウィークを中心に3年間と卒業後を見据えたキャリア教育の取り組みを進めた。1年次から意識を高める取り組みを行うことで、卒業時の進路選択と決定に良い影響が出ており、今後も継続して進めていきたい。	主体的に自分の人生を切り開いてゆくような進路選択のできる力が、生徒達には必要と思う。進学・就職という狭義の進路指導にとどまらない、社会状況の変化にも対応できるキャリア教育をさらに追究していきたい。
		卒業時の進路決定を見据えた取り組みを1年次より段階的に行い意識を高めるとともに、進学・就職に必要な学力の育成に努める。	3.19		
4	社会に開かれた教育活動	・地域連携 ・地域資源の教材化 ・自主活動（生徒会・クラブ）	3.19	農業科コース授業では地域と連携した教育を着実に進め、地域貢献意識の醸成を図っている。生徒会・クラブ活動でも地域の行事や篠ノ井あいさつ運動、自転車防犯活動、清掃奉仕活動等に協力し評価をいただいている。農業クラブ活動では全国大会出場をはじめ多くの生徒が結果を出し、自信につながったと思われる。	地域を教材としたコース授業での取り組みを全体で共有していくことについては改善の必要があり、普通教科の授業も含めて教科横断的な教育活動へつなげていきたい。生徒会・クラブ活動については生徒の主体的な意欲の涵養や部員数の増加・維持、教職員の負担軽減など課題が少なくない。
		「信州学」など地域の資源に着目した教育活動や各種交流活動に取り組み、地域とのつながりを意識し、将来、地域のために貢献できる人材の育成に努める。 生徒会・農業クラブ及び課外クラブ活動への生徒の自発的な参加と主体的な活動に取り組むように促す。	3.16		

「評価」欄は A=4（たいへんよい） B=3（おおむねよい） C=2（やや悪い） D=1（たいへん悪い）で個人で評価し平均値を集計したもの。

評価対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	
5	農業教育	1年 (基礎教育)	農業科の基礎科目の学習を通して、2年進級次のコース選択において自ら積極的な選択ができるよう指導する。	「学び」に対する姿勢について指導を徹底してきた結果、最低限のレベルは維持できており、生徒は高校で学ぶ意義を理解し、学習に対して自ら努力しようとする意識を高めてきた。引き続き1年次における「学びの姿勢」の定着に取り組みたい。総合実習では簿記・作物・栽培基礎分野で2年次コース選択の参考になるが、他コースの選択を考慮した場合、改善の余地がある。
		A 生産技術	作物生産技術を中心に、機械、土木系資格取得、技能習得に積極的に取り組み、関連する地域産業に貢献する人材育成を目指す。	作物生産技術を中心に機械、土木系資格取得、技能習得に積極的に取り組み、関連する地域産業に貢献する人材の育成をすることを達成できた。今後もより良き社会人の育成に努力していきたい。
		B 流通経済	簿記能力検定において商業科卒業生徒と同等以上の技能を習得し、事務・販売・流通系で活躍が可能であり、かつ水稻を題材とした研究を深めて4年制大学、短大、大学校への進学もできる人材の育成を目指す。	3年生では学びの成果として全経簿記検定2級を全員取得し、進路実現に向けた取り組みが出来た。2年生は半数の生徒が全経簿記検定2級を取得しており、日商簿記検定2級の学習に取り組み始めている。さらに高度なものに取り組むという意欲、向上心を育てている。「努力すればできる」「自分はこうなりたい」など自我を高める意識の向上が必要で、今後の課題である。
		C 食品科学	食品の成分分析ならびに食品加工技術を学ぶとともに、地域の農産物を生かした加工品の開発などを目指し、食品関連産業に貢献できる人材を育成する。	2年生は食品化学、食品製造、微生物の基礎知識を習得する中でプロジェクト研究に取り組み、まとめたレポートでF F J検定を受検し全員合格することが出来た。また、3年生はこれまでの知識・技術を応用し、新しい加工品の開発や食品の有効利用など探究的に取り組みまとめることが出来た。また、進路も食品関係の進学・就職に進む生徒も増えており、今後も授業で学んだことが生かされるよう指導したい。
		D 環境科学	身近な環境についての各種調査・研究活動を意欲的に取り組むと同時に、その成果をもとに信州の環境の実態やこれからの農業についての自分たちの考えを様々な機会に発信し、地域の環境や農業を守る人材を育成する。	危険物乙種4類・eco検定で多くの合格者を出すことができた。今年度より生活排水や工場排水を資源として活用する研究をスタートさせ、現在研究成果をまとめている。2年次には身近な環境について学ぶ基礎的な調査方法を身につけ、3年次には環境問題をテーマに班ごとに研究を行った。長野県農業クラブ各種県大会では循環型社会を目指した活動成果を発表し、優秀賞を受賞した。
		E アグリネット ワーク	栽培基礎的な学習とその利用について考え、農業の楽しさ・食の大切さを地域に発信するための「農業」「園芸」を活かした交流活動を考えて実践する。活動を通して地域と社会に貢献する意識と、自らのコミュニケーション能力を向上させ、卒業後も多方面において活躍できる力を養う。	2年生は栽培プロジェクト学習をとおして、他者と協力をしながら栽培学習の基礎やレポートのまとめ方を学んだ。しかし、授業を受ける姿勢に幼さが目立ち、学ぶ姿勢を継続的に指導する必要がある。3年生では今までの交流学习だけでなく遊休農地活用による地域活性化プロジェクトを実践した。活動を通じて校内だけでなく校外の多くの方々とふれあいコミュニケーション能力が向上した。今年度からスタートしたプロジェクトを発展させコース学習の充実を図りたい。
		F 園芸デザイン	草花の栽培管理の知識・技術を身につけるとともに、それを生かした交流・販売活動を実践する。地域連携を経験することでコミュニケーション能力を養成し、地域貢献できる人材を育成する。	2年次から継続して栽培管理を行う中で身に付けた知識や技術を、全国都市緑化フェアでの販売活動をはじめ各地での販売や植栽活動で活用できた。それらを通じてコミュニケーション能力の醸成を図り、地域に貢献することができた。地域貢献活動では地元にとどまらず県内他地域にも目を向けて活動に取り組むことができた。様々な活動に意欲的に取り組み、長野県農業クラブフラワーアレンジメント競技で2名が優秀賞を受賞し、内1名が全国産業教育フェアへ出場した。
		G 施設野菜	施設を中心とした野菜栽培に関する知識と技術を習得し、野菜の特性や栽培に適した環境を理解する。地域農業と生産現場の担い手となるスペシャリスト養成と、地域社会に主体的に貢献できる人材育成を目標とする。	2年次から栽培管理を行う中で知識や技術を身に付けることができた。2年生では全員が農業クラブ中級検定のためのレポート作成を行い、ほとんどの生徒が上級検定を受検した。3年生は各自で課題を見つけ研究を行ったが地域に関するテーマに取り組む生徒が多く、地域課題を解決するための基礎力が身に付いた。また、保育園児との交流や野菜苗販売により地域連携を深めた。
		H 果樹科学	果樹の栽培管理を通じて、知識・技術ならびに態度を身につけ、地域産業の担い手を育成するとともに、地域社会に主体的に貢献できる人材育成を目指す。	2年生はモモ、ナシの栽培に係わるプロジェクト学習に取り組んだほか、夏季休業中に農家研修へ全員参加し、地域産業への理解を深めることができた。3年生は、新たな栽培・加工方法並びに高品質化栽培の研究を行った。実習においては協力しながら作業に取り組む姿が見られた。今後は校内だけの研究活動ではなく、より地域密着型の活動を行っていききたいと考える。